

授業科目名	英語 L・S	開講時期 1年次前期	単位数(時間) 1単位(30時間)	必修/選択 必修
担当教員名 廣渡太郎	担当教員所属/研究室 看護学部/2号館3階366研究室		オフィスアワー 毎週水曜日 10:30~12:30	
授業の 目的・目標	<p>目的 自己表現のための基礎英語コミュニケーションスキルの習得</p> <p>目標 英語を英語のまま理解し、実用的なコミュニケーション・ツールとして身につけるためには、日常的に英語に接して積極的に使おうとする姿勢が重要である。本講座では、スピーキングとリスニングを中心に、ライブ感あふれる実用的で多様な英語に触れながら、これまで培ってきた自分の英語力を真のコミュニケーション力へと向上させるのに必要な基本スキルの養成をめざしたトレーニングを行う。</p>			
主な授業内容(担当教員)				
<p>第01回: CLASS GUIDANCE クラスガイダンス</p> <p>第02回: Introducing your classmate Say it in English!</p> <p>第03回: Answering questions What's the purpose of your visit?</p> <p>第04回: Asking about prices How much is it?</p> <p>第05回: Buying a train ticket When is the next train to Xi'an?</p> <p>第06回: Asking for help The TV is broken.</p> <p>第07回: Finding out where there is What is there to see?</p> <p>第08回: MOVIE THEATER "Spirited Away" Part I</p> <p>第09回: MOVIE THEATER "Spirited Away" Part II</p> <p>第10回: Disagreeing with people politely Tell me about your country</p> <p>第11回: Getting treatment Does it hurt?</p> <p>第12回: Asking for directions Go straight along this road.</p> <p>第13回: Talking about experiences Have you been to the Great Wall?</p> <p>第14回: Review 復習</p> <p>第15回: FINAL EXAM 期末試験</p> <p>授業は、テキストによる“会話演習”“語彙習得”“文法理解”、および、毎回授業の始めに実施するリスニングの小テストで構成される。同時に、映画、テレビドラマ、CM等を用いた生の英語に可能なかぎり多く触れる機会をつくり、英語で自己表現するための基礎力を養う。</p>				
成績評価方法	出席点(授業への参加度を含む)、平常点(課題提出・積極性等)、リスニング小テスト、期末試験の成績による総合評価。			
テキスト	"Passport 2nd Edition Level 2 Student Book with CD" (Oxford University Press) "Guess What?-A Vocab Quiz Book" (Cengage Learning)			
参考文献	授業時に指示する。			
履修にあたっての留意点	英語力の養成は継続して学習することが大前提である。したがって、遅刻・欠席は出席点減点の対象となり、欠席回数が履修規定を越えた受講生は、事由の如何に関わらず「D」の成績評価となるので注意すること。			
備考	毎回の授業時に必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること。 参照先 URL:			

授業科目名	中国語L・S	開講時期 2年次前期	単位数(時間) 1単位(30時間)	必修/選択 選択必修
担当教員名 張雅麗	担当教員所属/研究室 非常勤講師		オフィスアワー	
授業の 目的・目標	<p>目的 入門中国語の基礎能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>目標 1) 中国語を正しく発音するための記号(ピンイン)を理解し、正しく発音できること。 2) 中国語を用いて、日常の簡単な挨拶や医療現場での簡単な会話ができること。 3) 中国語の初歩的な文法について理解できること。 4) 日々の学習を通じて、中国の生活文化についての理解を深めること。</p>			
主な授業内容(担当教員)				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発音(あいさつ 1) 2. 発音(あいさつ 2) 3. 発音(あいさつ 3) 4. 人称代名詞、自己紹介 5. 是～「～です」の構文 6. 形容詞述語文 7. 動詞述語文 8. 疑問詞による疑問文 9. 数字に関連する表現(日付、曜日、時間) 10. 「有」の構文(1)所有を表す、(2)存在を表す 11. 量を表す量詞 12. 完了を表す助詞 13. 手段を表す連動式 14. まとめ 15. 試験 				
成績評価方法	試験及び平常点(授業態度、出席等)を総合して評価			
テキスト	「中国語入門ポイント45」山下輝彦(三修社)			
参考文献				
履修にあたっての留意点				
備考	参照先 URL :			

授業科目名	フランス語L・S	開講時期 2年次前期	単位数(時間) 1単位(30時間)	必修/選択 選択必修
担当教員名 辻野稔哉	担当教員所属/研究室 非常勤講師(秋田大学国際コミュニケーション講座)		オフィスアワー	
授業の 目的・目標	<p>目的 フランス語に親しみ、フランス語の基本的な仕組みを理解する。</p> <p>目標 1) フランス語の発音に親しみ、フランス語の綴りと発音の関係を理解できる。 2) フランス語で自己紹介ができる。 3) フランス語の文法的な仕組みに慣れる。 4) フランス語を通じて、フランスの文化や歴史について理解を深める。</p>			
主な授業内容(担当教員)				
<p>1回 ガイダンス 2回以降は、教科書に沿って進めていきます。 おおよその目安として 2回~4回 発音練習、自己紹介のしかた 5回~7回 フランス語の名詞や冠詞の仕組み 8回~12回 フランス語の動詞や形容詞について 13回,14回 数字や前置詞の使い方 15回 期末試験</p>				
成績評価方法	期末に試験を実施します。併せて簡単なレポートを提出してもらい、それらの総合評価によって単位の認定を行います。			
テキスト	「カドラーージュ」熊本哲也・辻野稔哉(駿河台出版社)			
参考文献	教室で指示。			
履修にあたっての留意点	語学の授業は、休まず出席することがたいへん重要です。勿論、ある程度の予習・復習が必要です。また授業中は、積極的に発言したり、質問したりしてください。			
備考	授業中は、積極的に発言したり、質問したりしてください。 参照先 URL:			

授業科目名	赤十字原論	開講時期 1年次前期	単位数(時間) 1単位(30時間)	必修/選択 必修
担当教員名 井上忠男	担当教員所属/研究室 看護学部/1号館3階研究室20		オフィスアワー 毎週水曜日13:00~15:00	
授業の 目的・目標	<p>目的 アンリ・デュナンの業績と赤十字の歴史・理念・基本原則から学び、人道を実践する医療人に必要な資質を養う。</p> <p>目標 授業では、国際赤十字・赤新月運動の起源、歴史、理念、基本原則及び日本赤十字社の事業としくみを理解する。特に国際人道法の内容と人道と人権の概念、赤十字標章の適正な使用方法について理解し、人間尊重の文化の担い手としての自覚を養うことを目指す。</p>			
主な授業内容(担当教員)				
<p>第一回 : 国際赤十字・赤新月運動の誕生 ・ アンリ・デュナンの人と功績 ・ 赤十字とジュネーブ条約の誕生</p> <p>第二回 : 赤十字と国際人道法の発展</p> <p>第三回 : 日本赤十字社の誕生 ・ 佐野常民の人と功績</p> <p>第四回 : 国際赤十字・赤新月運動のしくみと活動(1)</p> <p>第五回 : 国際赤十字・赤新月運動のしくみと活動(2)</p> <p>第六回 : 赤十字の基本原則(1) ・ 人道主義とは何か、なぜ原則が必要か、人道の原則</p> <p>第七回 : 赤十字の基本原則(2) ・ 公平、中立の原則</p> <p>第八回 : 赤十字の基本原則(3) ・ 独立、奉仕、単一、世界性の原則</p> <p>第九回 : 日本赤十字社のしくみと活動(1)</p> <p>第十回 : 国際人道法の基礎知識―世界の戦争の現実と戦争犠牲者の保護について</p> <p>第十一回 : 赤十字標章の適正使用の知識 ・ 赤十字マークの正しい使用方法</p> <p>第十二回 : 有事の赤十字社の役割 ・ 医療関係者の役割と権利義務</p> <p>第十三回 : 赤十字人に求められる資質とは(1)</p> <p>第十四回 : 赤十字人に求められる資質とは(2) 人道の4つの敵</p> <p>第十五回 : 試験</p>				
成績評価方法	試験及びレポート並びに出席状況を総合して評価			
テキスト	<p>「解説 赤十字の基本原則」ジャン・ピクテ(東信堂)</p> <p>「医師・看護師の有事行動マニュアル」井上忠男(東信堂)</p> <p>「赤十字と国際人道法」(日本赤十字社)</p>			
参考文献	<p>『ソルフェリーノの思い出』 出版社: 日本赤十字社 著者: J・ピクテ</p> <p>『赤十字のしくみと活動』</p> <p>『赤十字病院の活動と特色』</p> <p>/ ・その他の文献は、その都度紹介する。</p>			
履修にあたっての留意点	テキストは熟読すること。授業における発表、発言を重視するので、常に「考える姿勢」を持ち授業に臨むこと。日本赤十字社のホームページ、新聞等の国際情勢欄には目を通すこと。			
備考	赤十字関連映画の上映会を別途設定する。 参照先 URL: 担当教員への質疑、連絡は inoue@rcakita.ac.jp まで。			